

人とわれおなじ十九のおもかげを

うつせし水よ石津川の流れ

歌意

あの人と私、同じような19歳の面影を映した石津川の清らかな水の流れはいつまでもたえないことでしょう。

掲出歌集 『みだれ髪』明治34（1901）年8月  
初出 「明星」 明治34年1月号（晶子23歳）

石津川ながれ砂川髪をめでて

なでしこ添へし旅の子も見し

歌意

石津川、この流れゆく砂川を、私の髪をほめて撫子を髪に挿してくれた旅の子もみたことでした。

掲出歌集 『小扇』明治37年1月  
初出 「明星」 明治35年7月号（晶子24歳）

